

## 令和4年度 第1回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録(概要)

- 1 日時 令和4年8月26日(金) 午後3時~4時30分
- 2 場所 生涯学習センター 第一教室
- 3 出席者 川井委員、岡本委員、長田委員、長富委員、田村委員  
鈴木委員、山本委員  
(練馬区)文化・生涯学習課長  
(事務局)生涯学習センター所長、副所長
- 4 欠席者 井藤委員、押田委員(社会教育主事)
- 5 傍聴者 なし
- 6 次第
  - (1) 挨拶
  - (2) 運営懇談会委員自己紹介
  - (3) 事務局職員紹介
  - (4) 正副座長選出
  - (5) 議題  
令和3年度事業結果報告について  
令和4年度事業結果報告(4月~7月)および事業予定について  
主な事業の目標指数について
  - (6) その他
- 7 配布資料
  - 資料1 令和4・5年度練馬区立生涯学習センター運営懇談会委員名簿
  - 資料2 練馬区立生涯学習センター運営懇談会設置要綱
  - 資料3 令和3年度事業結果報告
  - 資料4 令和3年度施設利用実績
  - 資料5 令和4年度事業結果中間報告および事業予定
  - 資料6 令和4年度事業計画
  - 資料7 主な事業ごとの目標指数について

## 8 会議の概要

### (1) 挨拶

文化・生涯学習課長 渡辺 洋

### (2) 委員自己紹介

### (3) 事務局職員紹介

### (4) 正副座長選出

<所長> 令和4・5年度の任期の最初の運営懇談会となります。座長選出まで進行を務めさせていただきます。

生涯学習センター運営懇談会について、練馬区立生涯学習センター運営懇談会設置要綱に基づき説明します。(要綱の説明)

続いて座長の選出です。運営懇談会設置要綱第3条第2項に「座長は委員の互選により選出する」と規定があります。ご推薦をお願いします。

<委員> 川井委員をご推薦申し上げます。

(拍手)

<所長> 皆様からご賛同をいただきましたので、川井委員に生涯学習センター運営懇談会座長をお願いします。

(川井委員座長席に着席する。)

<所長> 運営懇談会設置要綱第3条第2項の規定により、副座長は座長が指名することになっております。副座長のご指名をお願いします。

<座長> 昨年も助けていただき、会議の内容も熟知している岡本委員を指名いたします。

(拍手)

(岡本委員副座長席に着席する。)

<所長> 座長、副座長のお二人から就任のご挨拶をお願いします。

<座長> 懇談会には、練馬区全体の生涯学習を検討する大事な役目があります。少数精鋭で、生涯学習とは何か、を考えつつ、74万区民に対する事業運営などを良くしていけたら、と思っています。

<副座長> コロナへの対応は反転攻勢をかける分岐点に来たと感じます。生涯学習センターも2年間の休息を終える時期だと思います。皆さんと活発に議論していけたらと思います。

<所長> 進行を座長にお譲りします。よろしくお願いします。

<座長> 議事に入る前に、本日の出席委員数の報告を事務局からお願いします。

<副所長> 本日の出席委員数は7名で、2名欠席です。傍聴はありません。

#### (5) 議題

令和3年度事業結果報告

所長から資料3・4に基づき説明(内容省略)

<座長> いろいろな事業がありますが、参加人数の割には最後まで残る人、会に入り、活動を続ける人が少ないと思います。生涯学習という言葉のとおり、続けてやってみようという人が少ないように思いますが。傾向としてはどうなのでしょううか。

<委員> 場所の問題があります。生涯学習センターで縁ジョイ倶楽部に参加しても、私のサークルの本拠地は大泉なので、参加継続とならない人が多いです。

<座長> 今、地域に地域集会所など様々な施設があるが、その施設で活動しているサークルが無いという声を聞きます。それから、施設の使用上の規制、ルールが厳しくなっているように思います。地域で活動可能な場所があれば、活動は地域につながっていくと思います。

<委員> 太鼓を例にとると、正式に利用可能なのは生涯学習センターだけです。

<座長> 場所の問題は大変重要であると思います。

教育委員会の時代は、私も地域に派遣され、区の事業として活動することがありました。今はそのような形態は無くなったのでしょうか。

<課長> ここまでのお話は大事なことです。センターで経験したことが、自分の住んでいる地域に帰って継続できれば非常に良いことだと思います。各区立施設はそれぞれの所管組織が管理しており、利用にあたってはそれぞれの施設のルールがあります。

今、各施設をより使いやすい形にできないかと、区役所全体で、話し合いを開始したところです。この場の意見なども参考にしていきたいと思います。

<座長> 施設のルールについては、利用者の目線に立ってもう少し使い勝手の良い施設としてほしいと思います。

昔は施設に講師として招かれたが、今はそのような機会もなくなった。全ての世代を巻き込んで、利用者が参加を継続できるような形としてほしいです。

縁ジョイという言葉にしてもわかりにくいものがあると思います。もう少し誰もが飛びつけるような言葉を使っても良いと思います。原点に帰り、一人ひとりが何か続けられるものを見つけられるような事業であるという発信をしていければよいと思います。

<委員> P T Aの活動をしていると、出し物を考える時、どこに頼めば良いか悩む事があります。もう少し横のつながりが欲しいなと感じます。

<座長> 私も出前講座の講師として登録しています。しかし、学校から講師依頼が来ることは無くなりました。地域文化部から学校へのアプローチが必要なのではないのでしょうか。

<副座長> 今日の資料を見ると、区民発出前講座は1講座3件くらいの実績があります。活発に動いているように見えます。これなど、なにか解決するヒントにならないのでしょうか。

<課長> やりたいことを見つける縁ジョイ倶楽部、上達したのち講師をやりたい場合は出前講座の講師登録など、各々の段階に合わせた仕組みはできていると思います。活動を継続するための仕組みを考える必要があること、また、出前講座の制度を周知することが必要です。各種の体験授業をやりたいという希望を持っている学校は多くあり、様々な分野の講師の先生がいることを学校側に紹介していくことは効果があります。今後共有をしたいと思います。

<座長> 最初は小さなことから始めても、活動の継続につながるようなP Rのやり方

も考えていくことも大事です。加えてそのあとに発表の場も作ってあげると、活動の継続につながると思います。

<副座長> 人に意欲を与えるような説明ができるかが重要だと思います。歩行が困難な人が病院に行くのはなぜか。直すという意欲が沸くからです。例えば、年に1回ホールで発表できる、これだけでも、意欲につながっていくと思います。人間の意欲をどのように醸成していくかを考え、アプローチしていくことも重要ではないでしょうか。

<課長> 学校を例にとると、子どもの時に経験をすることで、将来的には人生の楽しみになるように、その経験をとらえることができると思います。また、「人に見てもらおう」ことはモチベーションになります。縁ジョイ倶楽部で体験した活動を継続していけば、このような発表の場があるとPRするやり方もあります。「楽しみ」「趣味」「生きがい」を作ることは人間の一番根源的な部分です。そういった部分に働きかけるようなPRにより、生涯学習に誘引していくような仕組みを作っていけるとよいと思います。

<座長> 費用の問題もあります。高齢者の講座を有料にした途端に参加者が大きく減少した経験があります。子どもの場合は学校の負担もあるかと思いますが。

<課長> 子どもの場合は家庭の了解のもと、費用負担を求めることとなりますが、高齢者の場合でもそのような問題が起こりうるということを認識しました。

<座長> 考えていくと様々な問題があります。まずは、人を引き寄せる言葉を作っていけたらと感じます。

<課長> ハードルを低くして、自分でもできるかな、と思えるようなご案内の方法も大事だと思いました。

<座長> 生涯学習センターらしいものとは何かを考えた場合、生涯学習ということで、原点に戻るべきでは、と思いました。それを地域に広げていけたらと思います。

<課長> 何かやりたい、学びたい、という欲求はみんなが持っています。そのような根源的な部分に働きかけるため、事業全体をを見直し、レベルアップしていく必要があるかもしれません。

<委員> 自宅近くの神社で盆踊りをやっていました。主催は小学校PTA、消防署協賛、など地域の繋がりを感しました。センターの盆踊り講習会は中止になっており、残念に思います。神社などとの連携も考えることができたならよかったのに、と思いました。

<座長> 地域の連携は大事ですね。今の世の中、騒音の問題などもあり、難しい面がある。思いやりのあるルールづくりも必要かと。話は広がりすぎましたが。

<課長> 生涯学習のテリトリーでできることは、「日常生活から離れ、楽しいことをやっています。参加しませんか。」と言い続けることではないでしょうか。それが、原点に立ち帰るべき施策であると思います。

<委員> 出前講座の講師はどのような経緯で登録されているのでしょうか。もう一つ、サークル、文化団体の中で講師を務めることができる方、出前講座に登録されている方はどの位いらっしゃるのでしょうか。一定数の方を確保して、アウトプット、地域に広める活動を行っていただければと思います。

<座長> 出前講座に登録している方は、教えることができる人という理解で良いでしょうか。

<所長> 講師はあ・そ・ぶサイトで常時募集しています。講師の講義内容も同時に公開しており、習いたい人はそれを見て、直接講師に申し込んで頂いています。

<課長> 出前講座の制度を始めたことで、講師をやりたい人の数を情報として把握することができた面があります。地域へ派遣するというのも活動を広げることにつながっていいと思います。

令和4年度事業結果報告（4～7月）および事業予定について  
所長から資料5・6に基づき説明（内容省略）

<座長> 質問ございますか。

無いようでしたら、次に進みます。

資料7はお目通しください。時間も無くなりました。最後に副座長から、お願いいたします。

<副座長> 今日は「生涯学習とは」という本質的な話になりました。考えることは大きく考え、今、実施しているものを着実に良いものにしていきたいと思えます。資料の中に満足度の指数があります。これはうれしいデータです。しかし、日常の利用について声を聞くよりも、これからはアンケートにおいて、生涯学習を考えるうえでのポイント、アイデアを皆様から募るような仕組みがあっても良いかなと思いました。

<座長> 次回以降は事業の方向性が少しでも付けば良いかなと思えます。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。